



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	初級語彙・文型による「耳をすませば」スクリプトの分析：日本語学習資源としてのアニメーション映画の可能性
Author(s)	田中, 里実; 本間, 淳子
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 13, 98-117
Issue Date	2009-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45685
Type	departmental bulletin paper
File Information	BISC013_007.pdf



初級語彙・文型による「耳をすませば」スクリプトの分析 －日本語学習資源としてのアニメーション映画の可能性－

田中里実・本間淳子

要 旨

近年、日本語学習の契機にアニメーション・マンガ・J-popなどの日本の現代文化をあげる学生が増加している。その中でもアニメーションは、映像資源としての音声・動きに加えて個性的なキャラクターがストーリーを展開させるという特徴があり、有効な日本語学習資源になりうることで複数の先行研究によって認められている。しかし、学習者からのニーズは高いものの十分に活用されているとは言い難いのが現状である。

本稿では、『耳をすませば』のスクリプトを分析し、初級教材としての特徴を明らかにするため、1) 現実の日常会話との対応関係、2) 初級語彙・文法との対応関係、の二点について分析を行った。1) については、イ形容詞の活用形の出現率、頻出語彙とその累積頻度を例に、現実の日常会話と『耳をすませば』を比較した結果、上記はほぼ一致しており、『耳をすませば』は現実に近い言語使用のサンプルを提供する資源になる可能性が示唆されていた。2) については、『耳をすませば』の動詞の5割、イ形容詞の約6割が初級語彙で構成されていた。文法については、約何割が初級文法で構成されているかという数値を出すには至らなかった。反対に、『耳をすませば』は初級語彙の4割程度、初級文法の8割弱をカバーしており、文法は初級教科書全体にほぼ匹敵する項目数が含まれていた。

以上の分析結果と考察から、アニメーション映画は初級の学習者にとっては、教科書・授業で学んだ文法項目の多くを確認することができ、視覚情報と人間関係がある場面において、日常的な語彙を学ぶ手段になりうる可能性があると考ええる。

〔キーワード〕 アニメーションのスクリプト、映像資源、日本語能力試験3・4級、初級学習者

1. はじめに

近年、日本語学習の契機にアニメーション・マンガ・J-popなどの日本の現代文化をあげる学生が増加している。中でもアニメーション（以下、アニメとする）は映像資源としての音声・動きに加えて、個性的なキャラクターがストーリーを展開することから、「動機づけだけにとどまらない魅力的な日本語学習用素材」（矢崎、2009：27）の可能性を持つことが指摘されている。

言語教育のための映像資源に関する先行研究においては、視聴覚的情報によって、豊かな文脈と共に、現実に近いコミュニケーション活動や社会的文化的な情報を提示できること、従って、学習動機が高められることなどが価値として認められている（佐久間・海野、1995）。

日本語教育においてもこれらの価値が重視されているが、映像資源に関しては1990年代までの「学習項目の先行期」と2000年代半ば以降の「学習者のニーズ先行期」に区分されると考える。「学習項目の先行期」には、複数の教育用の映像教材¹⁾が作成されてきたが、その際、作成者側は「初級日本語教科書の学習事項になるべく共通するように配慮」（日向・中野、1986：77）していた。これに対して「（日本語教育）映画に物語性・娯楽性が欠け」（日向・中野、1986：81）ることが指摘されていたが、作成者側は「教えたい文型・表現などの学習項目が、適切な形で適切な場面で適切に表現されているかどうか」（同前）が判断しきれないところが（日本語教育）映画の限界だと述べている。しかし、ストーリー性の欠如と学習項目の提示の適切性という問題は、実は表裏一体を成し、映像教材の作成の際に学習項目が先行していることに起因すると考える。

1990年代後半以降、インターネットなどのメディアの発達により映像へのアクセスが容易になり（加藤、2003：57）、また日本のアニメが芸術としても高い評価²⁾を受けるようになった。「マンガ、アニメなどポップカルチャーに対する関心が日本語学習の動機の一つとなっている」（国際交流基金、2008：6）ことが報告されている。日本語学習・日本留学の動機としてアニメ・マンガをあげる学習者に加えて、大学院生・研究者にも「『アニメ・マンガ』を専門とする者が急増している」（熊野・廣利、2008：56）。日本語学習者側は映像資源によって動機づけられ、それに自覚的であるにもかかわらず「『アニメ・マンガ』の日本語教育への利用はまだ非常に限られて」（熊野・廣利、2008：66）いる現状³⁾は、「学習者のニー

ズ先行期」だと言える。

「学習項目の先行期」は、ストーリー性の欠如と学習項目の提示の適切性が、「学習者のニーズ先行期」は、学習者の強いニーズと日本語教育現場での対応の不一致が問題点だった。双方の課題を乗り越える一案として、本稿ではアニメの SCRIPT そのものを対象として、初級学習項目(文型・語彙)との対応関係を検討し、初級者のための学習資源としてどのような特徴を持っているかを明らかにする。

2. 分析対象と分析方法

2.1 分析対象

上述のような問題意識から、対象作品は、教室内での使用に適している(暴力などの場面がない)か、言語的な素材として適切か、さらに、アクセスが容易かを検討した上で、スタジオジブリのアニメーション映画『耳をすませば』(1995)とする。選定の具体的な理由は、1) ストーリーが1990年代の東京都多摩地区と現代的かつ現実的な場面で展開されていること、2) 主人公は中学生で、家庭・中学校・図書館などの場面で現代の日本事情がわかりやすく描かれていること、3) それらの場面では親子・姉妹、生徒と先生・友だち同士・保護者と先生などの多様な人間関係でさまざまなスピーチ・スタイルが使用されており、また登場人物の性別のバランスがとれていること、4) 作品が英語・中国語・ドイツ語・韓国語・タイ語・ベトナム語などに翻訳され、国際的な評価を得ていることである。

分析には、筆者らが本作品DVDの日本語字幕、および、宮崎(2001a)に準拠して文字化したSCRIPT⁴⁾(以下、『耳をすませば』とする)を用いた。(資料1にストーリーを、資料2に登場人物を付した。)

2.2 分析方法

本稿では、『耳をすませば』の初級教材としての特徴を明らかにするために、1) 現実の日常会話、2) 初級語彙・文法との対応関係について分析を行う。

まず、1) 『耳をすませば』と日常会話との対応関係を検討する。小林(2009)の「日本語母語話者の日常会話コーパス」を参照し、『耳をすませば』に現れたイ形容詞について①活用形ごとの使用頻度、②使われたイ形容詞の頻度順について分析を行う。次に、2) 『耳をすませば』と初級語彙・文法との対応関係について検討する。この際、「初級」の定義が問

題になるが、財団法人日本国際教育支援協会主催の日本語能力試験 3・4 級が日本語教育の現場でいわゆる「初級」と広く認識されていることから、本稿では『日本語能力試験 出題基準 (改訂版)』(2002) の 3・4 級語彙、3・4 級文法 (以下、「3・4 級語彙」「3・4 級文法」とする) を初級語彙、初級文法として、『耳をすませば』との対応関係を分析する。3.2 節では、初級語彙・文法に占める『耳をすませば』の語彙・文法を分析する。3.3 節では、『耳をすませば』に占める初級語彙・文法を分析する。具体的には、語彙では、動詞、イ形容詞、ナ形容詞の三つの品詞を分析する。また、文法では、3・4 級文法が『耳をすませば』にどの程度現われるかを分析した後、初級の教科書との比較も行う。比較対象には『みんなの日本語』と『げんき』を用いる。これらの教科書は現在、日本語教育の現場で最も一般的に流通している初級教科書であり、これらの教科書と『耳をすませば』を比較することによっても、『耳をすませば』の初級教材としての可能性を探ることができると考える。3.2 の分析の視点は、3.3 の反対のアプローチをとっており、未習者が『耳をすませば』を使って日本語を学習した場合、初級文法や語彙をどの程度学習したことになるのかということと重なる。以上の分析を通して、初級の学習資源としての『耳をすませば』の有用性を検討する。

3. 分析結果と考察

3.1 『耳をすませば』と日常会話との対応関係

本節では、『耳をすませば』と現実の日常会話との対応関係を検討するため、小林 (2009) の「日本語母語話者の日常会話コーパス」を基に、『耳をすませば』に現れたイ形容詞について分析する。

3.1.1 イ形容詞の活用形ごとの使用頻度の比較

小林 (2009) では、イ形容詞の活用形をテンス (非過去・過去) と肯定・否定の組み合わせから、「～い (です)」、「～くない (です)」、「～かった (です)」、「～くなかった (です)」の四つとしている。これらの四つの活用形ごとの使用頻度について、日本語母語話者の日常会話のコーパス (以下、日常会話コーパス) から抽出された 2,442 例 (延べ語数) と、『耳をすませば』に現れた 134 例 (同) を比較したものが表 1⁵⁾ である。

【表1：イ形容詞の活用形ごとの使用頻度】

	非過去 肯定	過去 肯定	非過去 否定	過去 否定	合 計
日常会話 コーパス	2237 (91.6%)	152 (6.2%)	51 (2.1%)	2 (0.08%)	2442 (100.0%)
『耳をすませば』	118 (88%)	9 (6.7%)	7 (5.2%)	0 (0%)	134 (100.0%)

日常会話コーパスが約21時間分／2,442例であるのに対し、『耳をすませば』は約2時間／134例と時間・量ともに少ないものの、イ形容詞の活用形の使用頻度はほぼ一致している。従って、「言語事実」（小林、2009：51）としては、『耳をすませば』に現れるイ形容詞の活用形は、日常会話に近い現れ方をしていると言えよう。

3.1.2 頻出するイ形容詞の比較

同様に、イ形容詞の出現頻度の面から「日常会話コーパス」の2,442例（延べ語数）と『耳をすませば』の134例（同）を比較したものが表2⁶⁾である。

【表2：使われたイ形容詞の頻度順】

「日常会話コーパス」

	原型	頻度	累積頻度	%
1	いい	963	963	39.5%
2	ない	397	1360	55.8%
3	すごい	109	1469	60.3%

「耳をすませば」

	原型	頻度	累積頻度	%
	いい	45	45	33.5%
	すごい	11	56	41.8%
	ない	7	63	47.0%

日常会話コーパスと『耳をすませば』を比較したところ、「いい」「ない」「すごい」が、2位・3位に入れ替わりがあるものの、上位3語となるという点で一致していた。また、1位の「いい」の出現頻度が3割強を占めている点も同じである。累積頻度では項目間で若干の差があるものの、日常会話コーパスではイ形容詞の全体の約6割、『耳をすませば』では全体の約5割を「いい」「ない」「すごい」の3語が占めている。ここから、『耳をすませば』に頻出するイ形容詞と日常会話コーパスに頻出するイ形容詞の大半が一致していると言えるだろう。

3.1.3 イ形容詞の分析結果

3.1節では、イ形容詞の活用形ごとの使用頻度と、語彙の使用頻度を「言語事実」の一部として分析し、『耳をすませば』と現実の日常会話との対応関係について検討した。活用形ごとの使用頻度はほぼ一致し、語彙の使用頻度では、使用されたイ形容詞の約半数を占める上位3位の語彙が一致した。この分析結果から日常会話コーパスと『耳をすませば』の言語使用の傾向の共通性が浮かび上がってきた。より確実性の高い分析のためには他の品詞についての分析を加える必要はあるものの、『耳をすませば』は現実に近い言語使用のサンプルを提供する資源になる可能性を示唆している。

3.2 初級語彙・文法に占める『耳をすませば』の語彙・文法の分析

3.2.1 『耳をすませば』は3・4級語彙をどの程度カバーするか

本節では、『耳をすませば』から、動詞、イ形容詞、ナ形容詞を抽出し、3・4級語彙との比較を行う。母集団を3・4級語彙とし、例えば、3・4級語彙の40%が『耳をすませば』に現れている場合、これを『耳をすませば』による3・4級語彙の「動詞」のカバー率が40%であるとする。動詞、イ形容詞、ナ形容詞について、それぞれのカバー率を示したのが表3である。

【表3：『耳をすませば』による3・4級語彙のカバー率】

『耳をすませば』によるカバー率	動 詞	イ形容詞	ナ形容詞
母集団 「3・4級語彙」	40%	37%	37%

『耳をすませば』は日常的な場面を多く含んだアニメである。そのため、動詞では当初3・4級語彙のほとんどをカバーできると予想していたが、結果は40%であった。3・4級語彙には現れるが、『耳をすませば』には現われなかった動詞を検討すると、カバー率が予想外に低くなった要因と考えられるものが二つあった。一つ目に、具体的な動作を表す動詞がセリフとして現れにくいことが考えられる。例えば、「(傘を) さす」「笑う」などの動詞は、映像としては現われているが、セリフとしては現われなかった。具体的な動作を表す動詞の出現率を『耳をすませば』に現れる動詞271例（異なり語数）と3・4級語彙中の動詞323例（異なり語数）で比較す

ると、重複する動詞130例を除いた『耳をすませば』にのみ出現する動詞141例中、具体的な動作を表す動詞が44例（31％）だったのに対し、3・4級語彙にのみ出現する動詞193例中、具体的な動作を表す動詞は99例（51％）となった。表に示すと以下の表4のようになる。表中「3・4級語彙のみ」とは、3・4級語彙にのみ現れる動詞、「重複」は3・4級語彙と『耳をすませば』の両方に現れる動詞、「『耳をすませば』のみ」は『耳をすませば』にのみ現れる動詞である。

【表4：具体的な動作を表す動詞の動詞全体に占める割合】

	3・4級語彙のみ	重 複	『耳をすませば』のみ
動詞全体	193(100%)	130(100%)	141(100%)
具体的な動作を表す動詞	91(51%)	50(38%)	44(31%)

3・4級にのみ現れる動詞と、『耳をすませば』にのみ現れる動詞では、3・4級にのみ現れる動詞に具体的な動作を表す動詞が多く含まれている。『耳をすませば』にのみ現れる動詞にも具体的な動作を表す動詞は含まれているものの、これらの動詞44例には、例えば、「着替える」「散らかす」「しまう」など、日常生活に密着しているが、3・4級語彙には含まれていないものが多かった。二つ目に、『耳をすませば』のセリフにはストーリーに沿った語彙しか現われないことが考えられる。例えば、読書が趣味の中学生の日常を描いている『耳をすませば』には、「致す」「承知する」「盗む」などの動詞は現れない。また、イ形容詞、ナ形容詞も同様の傾向が見られ、夏から秋にかけての物語である『耳をすませば』には、「暑い」や「(風が)冷たい」などは現われるが、「寒い」は現われなかった。

以上、『耳をすませば』による3・4級語彙のカバー率は動詞、イ形容詞、ナ形容詞ともに約4割程度となった。カバー率が4割程度にとどまった要因として、動詞に関しては『耳をすませば』に出現する動詞が映像の中の人物の発するセリフであるという制約上、具体的な動作を表す動詞が少ないことが挙げられる。また、語彙全体についてはストーリーに沿った語彙しか現れないことが考えられる。

3.2.2 『耳をすませば』は3・4級文法をどの程度カバーするか

本節では、『耳をすませば』と3・4級文法の対応関係を検討し、それを踏まえて『耳をすませば』と初級教科書を比較した結果について述べる。まず、この文法項目の対応関係を明らかにするためには、「1つの文法項目」を設定する基準が必要となる。本稿ではこの基準として、3・4級文法にある「表現形式」を用いた。手順としては、はじめに3・4級文法の「表現形式」（重複は除く）を抜き出し、資料3にあげたように240までの番号を振った。そして、このリストを母集団3・4級文法リストとした。『耳をすませば』の文法項目の分析は、このリストにある文型が『耳をすませば』の中に現われるかどうかを数値化し、行った。数値化には、初級語彙の比較同様カバー率という概念を使った。その結果、『耳をすませば』による3・4級文法のカバー率は77.2%であった（資料3）。また、同様に『みんなの日本語』や『げんき』についても分析を行った結果、それぞれの3・4級文法のカバー率は、表5のようになった。

『みんなの日本語』や『げんき』は初級をカバーすることを目的の一つとして作成されているのに対し、『耳をすませば』はそのような目的意識を持たずに制作されているアニメである。それにもかかわらず、約2時間の『耳をすませば』を見ると、240項目の初級文型のうち77.2%の185項目が現われるという結果は、初級教科書のカバー率が85%程度であることを考えると、かなり高いと言えるだろう。

【表5：『耳をすませば』と初級教科書による3・4級文法カバー率】

	『耳をすませば』	『みんなの日本語』	『げんき』
母集団「3・4級文法」 240項目	185(77.2%)	205(85%)	201(84%)

3.3 『耳をすませば』に占める初級語彙・文法の分析

3.3.1 3・4級語彙は『耳をすませば』をどの程度カバーするか

本節では、母集団を『耳をすませば』とし、この母集団は3・4級語彙によってどの程度カバーされているのかを前節と同様の品詞について検討する。例えば、『耳をすませば』に3・4級語彙の動詞の49%が現れている場合、3・4級語彙による『耳をすませば』の動詞のカバー率が49%で

あるとする。前節同様、イ形容詞、ナ形容詞、動詞のカバー率を示したのが表6である。

【表6：3・4級語彙による『耳をすませば』のカバー率】

3・4級語彙によるカバー率	動 詞	イ形容詞	ナ形容詞
母集団 『耳をすませば』	49%	58%	23%

動詞については、『耳をすませば』に現われる動詞の約半数が3・4級語彙の動詞であることがわかった。また、3・4級語彙になかった動詞の中でも具体的な動作を表す動詞には、前節でも述べたように「着替える」「散らかす」「しまう」など日常生活に密着してはいるが、3・4級語彙には現れないものが見られる。また、それ以外の動詞でも「届く」「悩む」「集中する」など、日常生活に密着したものや、「励まし合う」「走り回る」「食べきる」などの複合動詞も多く見られた。これらの動詞は、例えば「しまう」を「片づける」、「走り回る」を「走る」、「悩む」を「考える」など、ニュアンスは微妙に異なるものの、3・4級語彙に含まれている他の語で言い換えられるものが多い。3・4級語彙に含まれている語は概して、上に挙げた『耳をすませば』に出現する語よりも多くの場面で使われる一般的な語であった。動詞以外では、イ形容詞は、「あらあらしい」「たまらない」「ふさわしい」など、ナ形容詞は、「過激な」「変な」「メランコリックな」などの個人の主観に根ざした、人間関係や文脈に深く関係する語彙が多かった。これらの語彙は3・4級レベルでは扱われていないものが多いため、イ形容詞は約4割（21例：異なり語数）が、ナ形容詞は約4分の3（33例：異なり語数）が3・4級語彙の範囲外という結果になったと考えられる。

以上、3・4級語彙による『耳をすませば』のカバー率は動詞が約5割、イ形容詞が約6割、ナ形容詞が約2割となった。この結果は、動詞に関しては、日常生活に密着してはいるが、一般性は高くなく、3・4級語彙に含まれている他の動詞によって言い換えられる語が多いためであると考えられる。また、イ形容詞、ナ形容詞については主観的で特殊性の高い語彙が多く現れたために、3・4級の範疇に収まらない語が出てきたと考えられる。

3.3.2 3・4級文法は『耳をすませば』をどの程度カバーするか

次に、語彙の比較同様、『耳をすませば』に出てくる文法項目を母集団とした場合、3・4級語彙によるカバー率はどの程度か、ということについて分析を試みた。前節でははじめに3・4級の文法をリスト化し、母集団の数を確定した後に『耳をすませば』の中にそれに当てはまるセリフがあるか探す、という手順で分析を進めた。3・4級文法によるカバー率を計算するためには、前節同様、はじめに『耳をすませば』の中にある文法項目を抽出し、母集団として数を確定する必要がある。ただし、語彙と文法の境界をどこにおくかという定義など、いくつかの問題を解決しなければならない。その一つに、複合動詞の生成パターンを文法として考えるべきか、それとも語彙として考えるべきかという問題がある。例えば、3・4級文法では「Vはじめる」「Vおわる」など、複合動詞の生成パターンのうちのいくつかが文法項目とされているが、同出題基準の2級部分では「ひきとめる」は語彙リストの中に入っている。『耳をすませば』には初級教科書ではあまり扱われない複合動詞が多く含まれているため、この扱いによって文法項目の数が大きく変わるおそれがある。他にも、「一つの文法項目」をどう定義するかということについての問題があり、母集団の数を確定するためにはそれらの問題を精査する必要がある。そのため、この分析は今後の課題としたい。

4 分析結果についての考察

3.1では、イ形容詞の分析から『耳をすませば』の言語使用が日常的な会話の言語使用のサンプルとしての役割を果たしうるという可能性が示唆された。3.2では、初級語彙・文法がどの程度『耳をすませば』の語彙・文法によってカバーされているのかということ进行分析し、3.3では反対に『耳をすませば』の語彙・文法がどの程度初級によってカバーされているのかということ进行分析してきた。3.2の分析によれば、未習者が『耳をすませば』で学習した場合、初級語彙の4割程度と初級文法の8割弱を学習することになる。この文法項目の数は初級教科書全体にほぼ匹敵する。3.3の分析の視点は、初級既習者が復習のために『耳をすませば』を視聴した場合、どの程度理解可能かということと重なる。また、初級既習者は、『耳をすませば』の約半分の動詞、イ形容詞が理解可能であり、上に挙げた約8割の初級文法を復習することが可能だと考えられる。

初級語彙の中で『耳をすませば』に現れていない語彙には、ストーリーとの関連性が低いもの、動詞ではセリフには現れないような具体的な動作

を表すものという傾向がみられた。文法については、アニメの舞台や設定等によって使われる文型が限られる場合がある。例えば、使役受身形は『耳をすませば』には現れないが、『千と千尋の神隠し』(2001b)には現れる。そのため、未習者、初級既習者を問わず教室で使用する場合には、他の映像作品を併用することによって、初級文法をカバーできると考える。

以上、分析結果についての考察を述べた。この分析結果と考察から、アニメは初級の学習者にとっては、教科書・授業で学んだ文法項目の多くを確認することができ、視覚情報と人間関係がある場面において、日常的な語彙を学ぶ手段になりうる可能性が示された。

5. むすびにかえて

本稿では、『耳をすませば』のスク립トを対象とし、初級教材としての特性を明らかにすることを試みた。分析の結果からは、未習者が『耳をすませば』で学習した場合、初級語彙の4割程度、また、初級教科書全体にはほぼ匹敵する初級文法の8割弱がカバーできるということが明らかになった。

以上から、『耳をすませば』が初級者にとっての学習資源となりうるという可能性が示された。スク립ト分析の精度を高めると同時に、より多くのスク립トを検討していくことを今後の課題としたい。

注：

- 1) 国立国語研究所『日本語教育映画・基礎編』(1983)、国際交流基金『ヤンさんと日本人々』・『続ヤンさんと日本人々』(1984)などである。
- 2) 宮崎駿の「千と千尋の神隠し」は、2002年にベルリン国際映画祭で金熊賞、2003年にアカデミー賞長編アニメーション部門作品賞を受賞。2005年には宮崎駿がヴェネチア国際映画祭で栄誉金獅子賞を受賞するなど。
- 3) 2006年度日本語教育学会春季大会シンポジウムにおいても、「映像素材と日本語教育の在り方」(谷口、2006：19)が議論されている。
- 4) 作品中に、ヒロインが作詞したり歌ったりする歌詞、およびヒロインが執筆した小説の部分については分析対象から除く。
- 5) 小林(2009)「表3 活用形ごとの使用頻度」を参照し作成した。
- 6) 小林(2009)「表4 日常会話で使われたイ形容詞」を参照し作成した。

【参考文献・参照URL】

- 加藤清方（2003）「教育資源としてのテレビ・アニメーション番組と日本語教育」『日本語学』2003年11月号pp.56-64 明治書院
- 熊野七絵・廣利正代（2008）「『アニメ・マンガ』調査研究－地域事情と日本語教材－」『国際交流基金 日本語教育紀要』第4号pp.55-69
- 国際交流基金・財団法人日本国際教育支援協会編集（2002）『日本語能力試験 出題基準（改訂版）』凡人社
- 国際交流基金（2008）『海外の日本語教育の現状－日本語教育機関調査2006年－（概要）』
- 小林ミナ（2009）「『基本的な文法項目』とは何か」『日本語教育の過去・現在・未来 第5巻「文法」』pp.40-61 凡人社
- 坂野永理・大野 裕・坂根庸子・品川恭子・渡嘉敷恭子（1999）『初級日本語げんきⅠ・Ⅱ』ジャパントイムズ
- 佐久間勝彦・海野多枝（1995）「ストーリー性を重視した映像教材について『ヤンさんと日本の人々』を中心に」『日本語と日本語教育 阪田雪子先生古希記念論文集』pp.313-344 三省堂
- 田中よね・牧野昭子・重川明美・御小神慶子・古賀千世子・石井千尋（1998）『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ本冊』スリーエーネットワーク
- 谷口聡人（2006）『2006年度日本語教育学会春季大会予稿集（シンポジウム「映画・アニメ・マンガ－日本語教育の映像素材」）〈趣旨説明〉』pp.19日本語教育学会
- 日向茂男・中野泰子（1986）「日本語教育映画は主教材たりえるか」『日本語教育59』pp.76-84 日本語教育学会
- 宮崎 駿（2001a）『スタジオジブリ絵コンテ全集10耳をすませば』徳間書店
- 宮崎 駿（2001b）『スタジオジブリ絵コンテ全集13千と千尋の神隠し』徳間書店
- 矢崎満夫（2009）「アニメを素材とした日本語学習活動『アニメで日本語』の開発－「アニメーション」のティーチング・ストラテジーに着目して－」『静岡大学国際交流センター紀要』第3号 pp.27-42
- スタジオジブリ <http://www.ghibli.jp/>
- ジブリ作品字幕コレクション <http://www.geocities.jp/ohmu2rko/>

たなか さとみ（留学生センター非常勤講師）
ほんま じゅんこ（留学生センター非常勤講師）

【資料】

【資料1】

『耳をすませば』のストーリー

ヒロインの月島雫（つきしま しずく）は中学3年生。読書好きで、夏休み中も学校の図書室をあけてもらったり、市立図書館に通ったりしている。雫が借りる本の貸し出しカードにはいつも「天沢聖司」という名前がある。図書館へ行く途中の電車で、雫はふしぎなネコに出会う。ネコのあとを追っていくと、アンティークショップ（地球堂）にたどりつき、オーナーの西老人と出会う。雫は、同じ中学の少年にその店でも出会い、彼がイタリアへ行って、バイオリン作りの修行をしようとしていることを知る。その彼が天沢聖司だった。雫は高校進学も進路もはっきりせず、親友に相談するうちに「私、物語を書く」と決める。聖司が2ヶ月間イタリアへ行く間に、雫は「自分を試す」と物語を書き始める。

【資料2】

『耳をすませば』の登場人物

月島雫（つきしま しずく）：ヒロインの中学3年生。父母姉の4人家族。読書好き。詩を書くのも好きで、コーラス部の友人のために、カントリーロードの訳詩を書いた。

雫の父：市立図書館の司書。雫の図書館通いを見守り、進路についても理解を示す。

雫の母：現在、大学院生として修士論文作成中。

雫の姉：大学生。母の代わりに家事を手伝う。雫に対していつも手厳しい意見を言う。

天沢聖司（あまさわ せいじ）：中学3年生。雫とは違うクラス。西司朗の孫。読書家。高校には進学せず、バイオリン職人になるためにイタリア留学を計画している。

西 司朗（にし しろ）：80歳。聖司の祖父。アンティークショップ地球堂のオーナー。聖司がバイオリン作りになることや、雫が小説を書くのを応援している。

原田夕子（はらだ ゆうこ）：雫のクラスメート。コーラス部。杉村のことが好き。

杉村（すぎむら）：雫のクラスメートの男子。野球部。雫に好きだと告白するが…。

【資料3】

『耳をすませば』『みんなの日本語』『げんき』と「3・4級文法」対照表

		3・4級	耳すま	みんな	げんき		耳をすませばセリフ
1	…ハ疑問詞	4	○	○	○	西氏	味はどうか？
2	疑問詞が…	4	○	×	○	雫	え、誰がそんなことを言ったの？
3	Aデス	4	○	○	○	雫	おいしいです
4	Aクナイデス (Aクアリマセン)	4	○	○	○	雫	平気です、ちっとも寒くありません
5	Aカッタデス	4	×	○	○		
6	Aクナカッタデス (Aクアリマセンデシ タ)	4	×	○	○		
7	A(辞書形)	4	○	○	○	雫	うれしい
8	Aクナイ	4	○	○	○	雫	君もかわいくないね、私そっくり
9	Aカッタ	4	○	○	○	雫	来てくれてとても嬉しかった
10	Aクナカッタ	4	×	○	○		
11	Aクテ	4	○	○	○	雫	私、こわくて、こわくて
12	Aク+V	4	○	○	○	杉村	もっと早く走れ
13	A+N	4	○	○	○	雫	本当に楽しかった、みんないい人たちね
14	Aノ	4	○	○	○	雫	バカ、にぶいのは自分じゃないか
15	ANデス	4	○	○	○	雫	平気です、ちっとも寒くありません
16	ANデハアリマセン	4	×	○	○		
17	ANデハアリマセンデ シタ	4	×	○	○		
18	ANダ	4	○	○	○	雫	ヤッホー、元気だね
19	ANデハナイ	4	○	○	○	聖司	俺、そういうの好きじゃないよ
20	ANダッタ	4	○	○	○	杉村	おまえのことが好きだったんだ
21	ANデハナカッタ	4	○	○	○	雫	いえ、ご迷惑でなかったら…
22	ANデ	4	○	○	○	雫	私だって前はずーっと素直で
23	ANニ+V	4	○	○	○	聖司	この瞬間が一番きれいに見えるんだよ
24	ANナ+N	4	○	○	○	雫	優しい静かな人だと思ってたの
25	ANナノ	4	○	○	○	雫	困るってかわいそうなのはタ子よ
26	PlaceニNガアル/イル	4	○	○	○	雫	丘の上にこんなところがあるなんて
27	PlaceニNガQアル/イ ル	4	×	○	×		
28	NハPlaceニアル/イル	4	×	○	○		
29	Vマス	4	○	○	○	雫	今日からとりあえず受験生に戻ります
30	Vマセン	4	○	○	○	雫	わかりません、聞いてませんでした
31	Vマシタ	4	○	○	○	西氏	雫さん、読みましたよ
32	Vマセンデシタ	4	○	○	○	雫	わかりません、聞いてませんでした
33	V(辞書形)	4	○	○	○	雫	お姉ちゃん、家、出るの？
34	Vナイ	4	○	○	○	聖司	全然似てないよ
35	Vタ	4	○	○	○	雫	こんなのも作った
36	Vナカッタ	4	○	○	○	聖司	言ってなかったっけ俺の名前？
37	NガVi(—NラVt)	4	○	○	○	タ子	またそばかすが増えちゃうじゃない

38	(NガViー)NヲVt	4	○	○	○	西氏	時間をかけてしっかり磨いてください
39	Vテアル	4	○	○	○	雫	お花に水はやってあるのかな
40	Vテイル	4	○	○	○	雫	書きたいことがまとまっています
41	Vナイデ	4	○	○	×	母	やあね、灯りもつけないで
42	Nデス	4	○	○	○	雫	よくできてる、ドワーフですね
43	Nデハアリマセン	4	×	○	○		
44	Nデンタ	4	×	○	○		
45	Nデハアリマセンデンタ	4	×	○	○		
46	Nダ	4	○	○	○	父	今、プリントアウト中だよ
47	Nデハナイ	4	○	○	○	杉村	冗談じゃないよ、ずっと前から
48	Nダッタ	4	○	○	○	雫	大切な人だったんですね
49	Nデハナカッタ	4	○	○	○	雫	ただの野球バカじゃなかったんだ
50	Nデ	4	○	○	×	雫	それが心ない一言で生き埋めになった気分
51	NノN	4	○	○	○	聖司	言ってなかったっけ俺の名前？
52	Nノ	4	○	○	○	聖司	おまえのじゃないことぐらい
53	[…V/A/AN]+N	4	○	○	○	雫	あんなにたくさん人がいるところで
54	ナニ/ナン	4	○	○	○	先生	いやあ、何これ
55	ダレ/ドナタ	4	○	○	○	雫	え、誰がそんなことを言ったの？
56	イツ	4	○	○	○	雫	いつ、いつ行くの？
57	イクツ(個数、年齢)	4	×	○	×		
58	イクラ	4	×	○	○		
59	ドウ/イカガ	4	○	○	○	西氏	味はどうか？
60	ドンナ	4	○	○	○	雫	天沢聖司、どんな人だろう
61	ドノグライ/ドレグライ(時間、数量)	4	×	○	○		
62	ナゼ/ドウシテ	4	○	○	○	聖司	さて どうしてでしょう？
63	ナニカ、ダレカ、ドコカ等	4	○	○	○	杉村	なあ俺何が悪いこと言ったかな
64	ナニモ、ダレモ、ドコヘモ等	4	○	○	○	聖司	俺、何も応援しなかったから
65	コレ/ソレ/アレ/ドレ	4	○	○	○	聖司	これを雫に見せたかったんだ
66	コノ/ソノ/アノ/ドノ	4	○	○	○	雫	聖司君からこのお人形がおじいさんの
67	ココ/ソコ/アソコ/ドコ	4	○	○	○	聖司	雫が終わるまで、ここで待ってる
68	コチラ/ソチラ/アチラ/ドチラ (コッチ/ソッチ/アッチ/ドッチ)	4	○	○	○	先生	さあ、こちらへ
69	ヲ	4	○	○	○	汐	それをさがすために大学へ行ってるの
70	ニ	4	○	○	○	雫	いい、図書館に行かなきゃ
71	デ	4	○	○	○	汐	ちょうどこっちへ車で帰る人がいたんで
72	ヘ	4	○	○	○	汐	それをさがすために大学へ行ってるの
73	ト	4	○	○	○	雫	聖司君と同じ高校へ行けたら

74	カラ、マデ	4	○	○	○	西氏	いや、外から見えないところに
75	ヤ	4	○	○	○	母	お父さんやお母さんには
76	モ	4	○	○	○	夕子	勉強もできるって言ってたわ
77	格助詞+ハ/モ	4	○	○	○	零	見送りには行けないけど
78	カ	4	×	○	○		
79	ナド	4	×	×	○		
80	グライ	4	○	○	○	零	10年ぐらいはむこうで修行するんだって
81	ダケ	4	○	○	○	西氏	僕はバロンだけを連れて
82	シカ	4	○	○	○	西氏	追憶の中にしかいなかったバロンを
83	テ	4	○	○	○	汐	フトンをとりこんで、買い物をして
84	ガ(逆接)	4	○	○	○	西氏	うーん、かまわんが、しかし
85	カ	4	○	○	○	杉村	つきあってるヤツがいるのか
86	ネ	4	○	○	○	零	すごいな、よくこんなの作れるね
87	ヨ	4	○	○	○	零	つきあってる人なんかいないよ
88	ワ	4	○	×	○	夕子	勉強もできるって言ってたわ
89	中(ジュー)	4	○	○	○	零	私、休み中に20冊読んて決めたんです
90	タチ/ガタ	4	○	×	○	聖司	また来いよ、じいちゃんたち喜ぶから
91	アマリ…ナイ	4	○	○	○	零	あんまり言われないのも辛いときあるよ
92	11~10000の数	4	○	○	○	聖司	バイオリンは300年前に
93	○月○H(○曜H)	4	×	○	○		
94	(○月○H)○曜H	4	○	○	○	汐	私、今度のH曜Hに引越すからね
95	○時、○時半、○時○分、○時○分前/…ゴロ	4	○	○	○	夕子	えーっ、また4時まで起きてたの
96	○時間、○分	4	○	○	○	零	何時間でも待ってますから
97	Vテクダサイ	4	○	○	○	零	図書室開けてください
98	Vナイテクダサイ	4	○	○	○	零	やだ、こんなとき冗談言わないで
99	Nラクダサイ	4	×	○	○		
100	Vマショウ	4	×	○	○		
101	Vマセンカ	4	×	○	○		
102	Nガホシイ	4	○	○	○	母	欲しくないって
103	Vタイ	4	○	○	○	友人4	知りたいけど知りたくないのよねー
104	…ガ	4	○	○	○	西氏	うーん、かまわんが、しかし
105	…トキ	4	○	○	○	零	言えるときがきたら言う
106	Vナガラ	4	×	○	○		
107	Vテカラ	4	○	○	○	西氏	ようやくその街にいけるようになってから
108	Vタアトデ	4	×	○	×		
109	V(辞書形)マエニ	4	×	○	○		
110	デショウ	4	○	○	×	零	さては他に好きな人いるんでしょう
111	Vタリ…Vタリ	4	○	○	○	西氏	しかしバイオリンを作ったり
112	Aク/ANニ/Nニナル	4	○	○	○	零	平気だよ、全然眠くならないもん
113	Aク/ANニ/Nニスル	4	○	○	○	零	呼び捨てにしておいて
114	モウ+肯定	4	○	○	○	零	もう行っちゃったのかと思ってた

115	モウ+否定	4	○	○	×	夕子	もうしませんのでお見せください
116	マダ+肯定	4	○	○	○	雫	訳詞はまだいいんですよ
117	マダ+否定	4	○	○	○	雫	まだわからないから
118	…トイウN	4	○	○	○	西氏	雲母片岩という石なんだがね
119	…テ	4	○	○	○	雫	ショック受けて休んじゃったんだから
120	…カラ	4	○	○	○	聖司	歌えよ、知ってる曲だからさ
121	…ハ…ガ	4	○	○	○	西氏	この猫の男爵には連れがいる
122	Nヲ/Vテクダサイマ センカ	4	×	○	○		
123	V(ヲ)レル[受身]	3	○	○	○	雫	君はこの家で飼われてるの？
124	オVニナル	3	×	○	○		
125	V(ヲ)レル[敬語]	3	○	○	○	先生	確かPTAの会長をされていた方だよ
126	オN	3	○	○	○	母	ええ、お弁当？
127	オVスル	3	○	○	○	雫	おじいさんに最初にお見せします
128	オVイタス	3	×	○	○		
129	(オ)Aゴザイマス	3	×	×	×		
130	AN・Nデゴザイマス	3	×	×	○		
131	V(サ)セル	3	○	○	○	雫	お願い、聞かせて
132	V(サ)セラレル	3	×	×	○		
133	Vズ(ニ)	3	○	×	×	高坂 先生	でも話を最後まで聞かずに
134	一ノ	3	○	○	○	雫	聞くだけならな、歌うのは辛いよ
135	一コト	3	○	×	×	雫	書きたいことがまとまっていません
136	一トイウコト	3	○	×	×	雫	書きたいだけじゃだめなんだってこと
137	Vテイク	3	○	○	×	聖司	送ってなくていいの？
138	Vテクル	3	○	○	×	高坂 先生	飛び出してくるなんて月島らしいね
139	Vテミル	3	○	○	○	聖司	やってみないとわからないもんな
140	Vテシマウ	3	○	○	○	雫	毎日なんとなく過ぎちゃうだけ
141	Vテオク	3	○	○	○	母	がんばりな、お父さんに話しとく
142	コンナ/ソンナ/アンナ	3	○	○	○	雫	すごいな、よくこんなの作れるね
143	コウ/ソウ/アア	3	○	×	×	聖司	こうなるんだよ
144	チャ	3	○	×	○	雫	待ってちゃだめでしょうか
145	マデニ	3	×	○	○		
146	モ	3	○	○	○	夕子	15分も太陽の下にいさせて
147	バカリ	3	○	×	×	夕子	いやねー、テストばかりで
148	デモ	3	○	○	○	西氏	私はそのままでとても好きだがね
149	疑問詞+デモ	3	○	○	○	聖司	そのくらいのもん、誰でも作れるよ
150	トカ	3	○	○	○	雫	好きとかそういうんじゃ
151	シ	3	○	○	○	夕子	ハンサムだし
152	ノ	3	○	×	×	雫	君はこの家で飼われてるの？
153	ダイ	3	○	×	×	汐	それをさがすために大学へ行ってるの
154	カイ	3	○	×	×	父	雫、汐の言ったとおりかい？
155	Aサ/ANサ	3	○	○	×	雫	夕子のよさはきっと杉村にもわかるよ

156	ラシイ	3	○	×	×	高坂先生	飛び出してくるなんて月島らしいね
157	Aガル/A Nガル	3	×	×	×		
158	V(ヨ)ウト思ウ	3	○	○	○	汐	私、家出ようと思うんだ
159	ーツモリダ	3	○	○	○	汐	いったいどんな高校に行くつもりなの
160	V(ヨ)ウトスル	3	○	×	×	汐	でね、おしょうゆまで持たせようとするのよ
161	ーコトニスル	3	×	×	○		
162	Nニスル	3	○	○	×	雫	呼び捨てにしておいて
163	オVクダサイ	3	○	○	○	夕子	もうしませんのでお見せください
164	(サ)セテクダサイ	3	×	○	○		
165	ート言ウ	3	○	○	○	雫	夕子はあんたがどうしてそんなこというのって言ったんでしょ
166	Vハジメル	3	×	×	×		
167	Vダス	3	○	×	×	杉村	そしたらさ原田のやつ、急に泣き出して
168	ースギル	3	○	○	○	雫	ありすぎてまともじゃないんだ
169	ーコトガデキル	3	○	○	×	西氏	恋人同士を引き離すことはできないってね
170	V(ラ)レル[可能]	3	○	○	○	雫	言えるときがきたら言う
171	ーホウガイイ	3	○	○	○	雫	そっか、うん、その方がいいかもね
172	Vタガル	3	×	○	○		
173	ーナケレバナラナイ	3	○	○	○	雫	もっと勉強しなきゃだめだって
174	ーノニ	3	○	○	○	雫	同じ本を読んだのに
175	ーテモイイ	3	○	○	○	聖司	好きなだけ見ていいよ
176	ーテモカマワナイ	3	×	×	×		
177	ーテハイケナイ	3	○	○	○	西氏	はじめから完璧なんか期待してはいけない
178	ーナ	3	○	○	○	汐	雫、スタンドちゃんと消しな
179	Vタコトガアル	3	○	○	○	聖司	見たことあるんだ
180	Vタコトガナイ	3	○	○	○	夕子	私、ヤマなんか当たったことないもの
181	Vツツケル	3	○	×	×	西氏	ああして現れて王女を待ち続けるんだ
182	Vオウル	3	×	×	×		
183	ヤル	3	○	○	○	雫	お花に水はやってあるのかな
184	ーテヤル	3	○	○	○	西氏	自由に見てやってください
185	上ゲル	3	○	○	○	夕子	後輩にあげるだけじゃつまらない
186	ーテアゲル	3	○	○	○	西氏	そうだ、いいものを見せてあげようかな
187	サシ上ゲル	3	○	×	○	西氏	さしあげます
188	ーテサシアゲル	3	×	×	○		
189	クレル	3	○	○	○	夕子	あの手紙の返事くれって
190	ーテクレル	3	○	○	○	聖司	俺と結婚してくれないか
191	下サル	3	×	○	○		
192	ーテクダサル	3	×	○	○		
193	モラウ	3	○	○	○	雫	ラブレターもらったの？
194	ーテモラウ	3	○	○	○	西氏	しっかり見せてもらいました
195	イタダク	3	○	○	○	雫	お許しをいただけますか
196	ーテイタダク	3	○	○	○	雫	あの、今すぐ読んで頂けませんか？

197	ーバ	3	○	○	○	半	私もやればいいんだ
198	ータラ	3	○	○	○	聖司	中学を出たらそこへ行きたいんだ
199	ーナラ	3	○	○	○	半	アイツがやるなら、私もやってみる
200	ート	3	○	○	○	聖司	やってみないとわからないもんな
201	ーママ	3	○	○	○	西氏	まだ磨いてない自然のままの石
202	ーデモ/ーデモ	3	○	○	○	半	隠してもだめ
203	疑問詞+デモ/デモ	3	○	○	○	半	何時間でも待ってますから
204	ーダロウ	3	○	×	○	聖司	わかるだろうってさ
205	{ダロウ}ト思ウ	3	○	○	○	半	優しい静かな人だと思ってたの
206	ーラシイ	3	○	○	○	友人 1	うまくいったらしいよ
207	ーカモシレナイ	3	○	○	○	半	虹が出るかもしれない
208	ーハズダ	3	×	○	○		
209	ーハズガナイ	3	×	○	○		
210	ーヨウダ	3	×	○	○		
211	{ーニヨルト}ーソウダ	3	×	○	○		
212	Vヤスイ	3	×	○	○		
213	Vニクイ	3	○	○	○	半	歌いにくくない？
214	ーハーヨリ	3	○	○	○	半	俺、おまえより先に
215	ーヨリーホウ	3	×	○	○		
216	ートートドチラ	3	×	○	○		
217	ーホウ	3	○	○	○	西氏	もっと奥の小さいものの方が純度が高い
218	ーホドーナイ	3	×	○	○		
219	ーヨウ[比喩]	3	○	×	○	西氏	聖司のバイオリンのようだ
220	ーナクテモイイ	3	○	○	○	聖司	送ってかなくていいの？
221	ーナクテモカマワナイ	3	×	○	○		
222	ーカタ	3	○	×	○	父	でも人と違う生き方は
223	V命令形	3	○	○	×	聖司	歌えよ、知ってる曲だからさ
224	Vナサイ	3	○	×	○	半	しっかり勉強しなさい
225	Vタメ(二)[目的]	3	○	×	×	聖司	図書カードに名前書くため
226	ーソウ	3	○	○	○	半	それで二人ともなんだか悲しそうなね
227	ーノデ	3	○	○	○	半	物語を書いたので、持ってきました
228	ータメ(二)[理由]	3	×	○	○		
229	ーガスル	3	○	○	×	半	知っていたような気がするの
230	V(辞書形)コトガアル	3	×	×	×		
231	V(辞書形)コトニナル	3	○	×	×	聖司	行けることになったんだイタリアへ
232	ーノダ	3	○	○	○	聖司	行けることになったんだイタリアへ
233	疑問詞+ーカ	3	○	○	○	夕子	相手とどうなりたいのかわからないよ
234	ーカドウカ	3	○	○	○	聖司	本当に才能があるかどうか
235	ーヨウニ言ウ	3	×	×	×		
236	ーヨウニスル	3	○	○	×	父	半のしたいようにさせようか、母さん
237	ーヨウニナル	3	○	○	○	西氏	ようやくその街にいけるようになってから
238	V(辞書形)トコロダ	3	×	○	×		
239	Vテイルトコロダ	3	×	○	×		
240	Vタトコロダ	3	○	○	×	父	半のこと、汝から聞いたとこなんだ

Analyzing a J-animation movie script

– As resources for Japanese language beginners –

TANAKA, Satomi and HOMMA, Junko

The number of J-culture devotees has increased dramatically in the past several years and they tend to become Japanese learners. This paper analyzes the script of an animated movie, “*Mimi o sumaseba (Whisper of the heart)*”, produced by *Studio Ghibli* in 1995, as a resource for Japanese language learners, especially beginners.

First, we compare the use of i-adjectives in the script to the “daily language corpus” of Kobayashi (2009). The results show that the three most used i-adjectives, *Ii*, *Nai* and *Sugoi* are the same and that the frequency of use of i-adjective inflections also corresponds to the list.

Second, we compare the grammatical and vocabulary items of the script to those of the JLPT 3rd Grade Test. The script covers 40% of the verbs, 37% of the i-adjectives and na-adjectives, and 77.2% of the basic grammatical items. This result shows that we can depend highly upon this script as a resource for introductory Japanese language for beginners.

Further analyses of animated movies will make it possible to cover all the major grammatical items and basic vocabularies.